

【OP 7】

ボーリングオペレーターの後継者問題と将来の展望

(株)藤井基礎設計事務所 下田平 豊

1. はじめに

最近、公共事業の見直しによって仕事が減ってきている。また、ボーリングは危険、きつい、汚いなどのイメージがあるためか若手のボーリングオペレーターが育ちにくいのではないと思う。現に若手オペレーターはどこへ行っても少なく、また長続きしないという話を良く聞く。

そこで、どのようにしたら若手オペレーターが育ち、根づいてくれるかを考えてみた。

2. 現状

- ・当社においては、オペレーターを募集しても経験者が多く、若手の応募は少ない。
- ・多くの同業者から若手オペレーターが長続きしないという話を多く聞く。
- ・昔からの親方と弟子の関係は見られなくなってきている。

以上のことから若手離れが進んでいると思う。従って、今後、後継者問題が出てくるのではないかと心配している。

3. 原因

- ・若手オペレーターは、技術を習ったり、盗んだりという意欲が少なく昔からの親方と弟子という関係を好まない。
- ・一人前になるまで時間がかかり、忍耐が必要である。
- ・3Kに近いイメージがあり、意欲をもって志願するものが少ない。
- ・仕事量の低下から将来性が低いと受け取られている。

などが考えられる。

4. 若手オペレーターを育成する方法

- ・まず、本人たちに興味を持たせ、やる気を起こさせることである。
- ・次に、自主性、積極性が出てくるようにすることである。
- ・最終的には、自分たちの仕事に希望と誇りを持って仕事することが重要である。

その為に行うこととして

1) 仕事の中で興味を持てそうなことを教える

たとえば、ボーリング作業中に音や排水の色で地下の状態がわかるとか、コアを見ながらいろいろなことを説明したり教えたりする事である。若手一人一人

興味を持つことが違うが、ボーリングを通して、我々の役目やどういう事が楽しいのか、誇りを持てることなのかを話すことである。このようなコミュニケーションを持つことで信頼関係を持つことが大切である。

2) 次に自主性や積極性を持つ為の手段であるが、些細なことでもよいから何かを任せることである。最初は、道具の手入れなどでも良いと思う。例えば非常につまらない単純作業であっても、この仕事にはこのような意味があり、重要である事を説明し納得させる。良い仕事をしたときには誉めてやり、また逆に雑であったり手を抜いた場合は愛情を持ってしかることも大事である。ただ単に怒るのではなく、意味合いを理解させるとともに、本人にあった誉め方、叱り方をする事が重要である。

3) 最後の希望と誇りを持たせることは、上記2段階において常に考えさせる習慣をつけさせることが重要である。そうすれば、自発的に物事を考え、行動し、自分たちで反省したり、更に良い方法などを考えるようになるのではないだろうか。最後は与えるものではなく、自分達で見出すものとなって欲しい。

5. まとめ

ここまで、若手オペレーターの育成方法を書いてきたが、これはあくまで一つの例である。

人によっては、あまりにも上司が気を遣ったり、環境を作ったりと与えることが多いのではないと思う人もいるかもしれない。しかし、当社の場合、まずコミュニケーションを取り、お互いを理解し合い、言いやすい環境を整えた後、自主性を持たせる為に、若い人が得意とするパソコンや自動化装置の操作を任せたり、ボーリングマシンのメンテナンスの責任者とさせたて見た。すると当初は操作だけとかメンテナンスだけの範囲であったが、それ以外のことに興味を持ち、何事にも積極的に取り組むようになった。特に自動化装置やそのデーターを取り込む為のパソコン操作などは、いかにもスマートで現在の若者に合っている為か、新たなボーリングの技術として考えるようになり、将来は完全自動になるのかな?などと夢を膨らませている。

さらに、自分より後輩の面倒見も良くなり、社内においても非常に評価が高まった。

我々が先人から受け継ぎ、育んできたこの仕事をいつまでも若い人に受け継いでいきたいと思う。その為にも我々が行わなければならないことは、愛情を持って若手の育成に努めることだと思う。